

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

事業所名: ヴィストカレッジ西金沢駅前

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	6	0		・同時刻に個別療育を複数件行なう際、部屋の数がギリギリの状態となることがある。シフト調整の際に部屋割りも考慮し配分していく。
	2 職員の配置数は適切である	3	5	0		・スタッフの人数は十分だが人数が多い分、スタッフ個々の考えを述べる場や、意見を交換し合える場をさらに増やす必要がある。また余裕のある出勤や仕組み作りが必要と思われる。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	5	2		・トイレやベビーゲートなどに段差がある。改善が必要。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	6	0	・リーダー・メンターとの月1度の面談で、日頃の業務・目標設定している内容に関して振り返る時間は設けている。	・スタッフ間での知識や、考え方に差が見られることがあるため、スタッフ個々の強み・得意な点を活かすことの出来る仕組み作りを行っている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0	・コロナ禍で実施を見送っていた保護者会を再開することができている。今後もより多くの保護者の意見を取り入れていくよう善処していく。 ・保護者様からの要望については、事業所内に設置した意見箱、直接スタッフにお話しして下さった内容についても、スタッフ間が共有することで改善できること、お応えできることから改善している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	2	0		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4	4	・運営規定、契約内容報告書にて第三者評価は設置しないと明記している。	・他放デイへの見学や障害児通所支援事業連絡会への参加等を行い、放デイ同士のつながりを作っていく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	0	・月に3回程度、各事業所とWEBを通じて障害特性、支援方法、事例検討を行っている。	
9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0	・保護者様のニーズと本人の興味関心のあることを織り交ぜた支援ができるよう工夫して作成している。		
10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	4	0	・TTAP・K-ABC等のフォーマルアセスメントツールを児童の様子、保護者ニーズに沿って使用している。	・スタッフによって支援の中でアセスメントをとっていくことに差があるため、研修等を通して学んでいく必要あり。	
11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	4	0	・毎朝の朝礼にて、本日举行活動と目標を出勤スタッフに共有している。	・共有の時間を確保しきれない日も見られるため時間を確保していく。	
12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	2	0	・活動がマンネリしないよう他のスタッフに相談しながら工夫している。	・同法人内の放デイにて有効な支援を取り入れていく。	
13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1	0	・児童によっては、土日は運動、平日はPC操作等、児童の習慣に応じて変容させている。		

適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	2	0	・計画作成の際の保護者様との面談時に、他児童とのコミュニケーションのニーズがあれば、積極的にペアワーク・小集団への参加の促進など行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	4	0	・毎朝の朝礼にて、児童一人一人の目標、活動を共有している。 ・引継ぎが必要な時には必ず打ち合わせを行っている。また、児童の担当スタッフがワーク内容の取り組み方をあらかじめ決めることで、支援の質の安定に心がけている。	・集団ワーク等複数のスタッフが同じワークを担当する際、当日の打ち合わせとなると時間が無くなってしまいうため、前日までに時間をとるなど工夫をする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	0	・毎日の終礼にて、児童の様子とそこから見えた気づきを共有し合っている。必要に応じて、別日で児童一人一人の支援MTGを実施している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	2	0	・介護現場で使用されているSOAPを活用し、主観的情報・客観的情報を切り離して考え記録している。	・記録に関してスタッフ間で認識の差があるため、記録をとる意義を今一度スタッフ間で共有していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	・計画を基に児童の最近のご様子の聞き取りを行い、目標が達成できているか、未達成化の判断をし、次回の個別支援計画の作成に反映させている。 ・児童の状況に応じて、期間内での修整も行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	4	0	・児童の個別支援計画に基づいて実施しているが、主に個別ワークにおいて自立支援・余暇を取り組み、集団ワークにて創作活動や地域参加を行なっている。	・ガイドラインについて把握できていないため、年度初めなどの研修を行う。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	0	・児童発達支援管理責任者に加え、児童一人一人に当てられた担当スタッフも参加できるよう努めている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2	6	0	・学校への送迎をしていない為、密なやり取りはできてはいないと思われる。しかし、保護者からの要望があれば、学校連携を行ない、学校と放デイの普段の様子・目標の共有を行なっている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	2	4	・医療的ケア児の受け入れは現在行っていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	5	2	・昨年度は実施することができていなかった。	・児童の担当相談員と連携を行ない、関係機関との連携を心がけていく。その際は、ウイストカレッジの様子や取り組みをお伝えするとともに、他機関からの情報を得る。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	6	0	・昨年は卒業移行先の施設への情報提供を行なった。 ・まだ卒業生が少なく、まだ情報の開示を求められたことは無い。しかし、希望があれば開示していく。	・児童の担当相談員と連携を行ない、関係機関との連携を心がけていく。その際は、ウイストカレッジの様子や取り組みをお伝えするとともに、他機関からの情報を得る。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	5	2	・実施はしていないが、現在実施できるように進めている。	・発達障害支援センターとの連携を深めるためにもまずはカレッジの活動を知ってもらう。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	6	0	・施設内にて兄弟も参加できるイベントを実施している。 ・地域の商店街とは交流があり、店主に協力を得てイベントなど実施しているため大人との交流・活動はある。	・児童館など障害のない児童との関わりは今後機会を作っていきたいと思う。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4	4		・こちらからも積極的に情報を取得していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	2	0	・保護者が送迎している児童に対してはワーク後に振り返りをお伝えしている。自力通所をしている児童に対しても定期的に文章で保護者に通知している。 ・ワーク終了時に必ず保護者FBを行う際に、最近の様子など詳しく話して下さる保護者様もいらっしゃるが、こちらからも積極的に話を伺うようにしている。	・事業所内相談などを活用して児童の把握と保護者様の理解につなげる。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	4	・ペアレントトレーニングという名目で実施はしていないが、ワーク後の振り返りにおいて自宅での取り組み方法等をお伝えすることもある。 ・就労関係・栄養指導などは保護者交流会などで実施している。	・保護者会の内容について今後更に内容を充実させていく必要がある。 ・来年よりペアレントメンターの相談会を実施予定となっている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	2	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	2	0	・自分が答えられないときには、児童発達支援管理責任者に確認後、答えるようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	1	0	・コロナ禍において実施ができていなかったが2021年10月頃から定期開催を目指し、取り組みを行なっている(11月に実施)。 ・保護者交流会を年に2~3回実施している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	4	0	・保護者からのご要望に応じてチーム全体で改善方法を検討し改善に向けて努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	0	・2か月に1回事業所内の会報を発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	5	3	0	・個人情報が記載された文章は鍵付きのロッカーに入れている。またメモ書きをする際は伏字にしている。	
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	0	・その児童に合ったコミュニケーションツールを使用し、意思の疎通に努めている。 ・意思の疎通を図るために心掛けてはいるが、実際に満足されるかどうかについては保護者向けのアンケートを実施しており、その結果より確認していく。		

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	2	・近くの商店街の店舗と共同でイベントの実施を行なった。 ・事業所内のイベントの協力は依頼しているものの、こちらに招待したことではない。今後このような機会も設けて行けたらと思う。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3	2	・保護者様には契約の際に必ずお伝えしている。また、事業所内に運営規定はいつでも確認できるように設置してある。	・年に2回の訓練を実施しているが、マニュアルを全員に確認してもらったことはなかった。早急に内部での周知を行なう。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	0	・年に2回火災訓練・地震訓練を行っている。	・半年に1回だけでは、緊急事態時に対応するスキルの獲得は難しいのではないかと。頻度を上げていき、緊急時のスタッフの動きを獲得していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	0	・虐待防止に関する研修に参加されたスタッフから内部研修を必ず年に一回は行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	4	0	・身体拘束を要する場面がなかったため、個別支援計画には記載していない。契約時には保護者に説明は行っている。	・スタッフに対しての周知が行き届いていないことが分かったため、内部での研修を通して身体拘束の定義や必要性についてを伝えていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	4	0	・アセスメントの際にアレルギーの有無・種類の聞き取りを行っている。また飲食を伴う活動の際には、事前にアレルギーの有無・種類についての聞き取りを行っている。	・引き続き保護者・本人に対してアレルギーの有無・種類の聞き取りを行っていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	2	0	・ヒヤリハットが発生した場合には、当日中に全体に共有し、報告書を残している。また同法人の他拠点の情報も見れる状態となっている為、未然に事故を防ぐ体制を整えている。 ・ヒヤリハットがあった場合、スタッフ間共有している。	